授業科目名・形態	成人看護方法論Ⅱ（クリティカルケア・回復期ケア）　演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	今野　修，飛澤　貴子，村川徳昭	実務経験の有無	有	開講期	2年前期・後期
科目ナンバリング	N5-2012npmht				

【授業の主題】

急性期・回復期・クリティカルな状況にある成人期の対象と家族の特徴とニーズを理解し、その特徴と家族への看護援助方法を学ぶ。そして、急激に変化する対象の状態をアセスメントし、生命維持に必要な看護を実践するための基本的な知識と技術を学ぶ。また、機能障害別に症状の特徴を理解し、成人期の対象の特性を踏まえた看護援助方法を学ぶ。

【到達目標】

1. クリティカル状態の患者・家族の特徴と看護援助について理解することができる。
2. リハビリ期にある患者の特徴と必要とされる看護援助について理解することができる。

【授業計画・内容】

前期）

第 1 回 クリティカルケア看護の考え方（今野）
第 2 回 クリティカルケアを必要としている患者・家族の特徴とその看護（今野）
第 3 回 クリティカルな患者の病態（村川）
第 4 回 リハビリテーション看護の考え方（今野）
第 5 回 リハビリテーション看護とチームアプローチ（今野）
第 6 回 呼吸機能障害のある患者の看護①（村川）
第 7 回 呼吸機能障害のある患者の看護②（飛澤）
第 8 回 呼吸機能障害のある患者の看護③（ゲストスピーカー: :呼吸療法認定士）
第 9 回 循環機能障害のある患者の看護①（村川）
第 10 回 循環機能障害のある患者の看護②（飛澤）
第 11 回 消化機能障害のある患者の看護①（村川）
第 12 回 消化機能障害のある患者の看護①（飛澤）
第 13 回 重症熱傷患者の看護（飛澤）
第 14 回 感染予防対策（飛澤）
第 15 回 まとめ（今野，飛澤）

後期）

第 16 回 脳・神経機能障害のある患者の看護①（今野）
第 17 回 脳・神経機能障害のある患者の看護②（今野）
第 18 回 運動機能障害のある患者の看護①（今野）
第 19 回 運動機能障害のある患者の看護②（今野）
第 20 回 運動機能障害のある患者の看護③（今野）
第 21 回 身体の一部を喪失した患者の看護（今野）
第 22 回 感覚機能障害のある患者の看護（今野）
第 23 回　リハビリテーションに必要な看護技術①（技術演習）（今野）
第 24 回　リハビリテーションに必要な看護技術（技術演習）（今野）
第 25 回 クリティカルケアに必要な看護技術①（グループワーク）（今野，飛澤）
第 26 回 クリティカルケアに必要な看護技術②（グループワーク）（今野，飛澤）
第 27 回 クリティカルケアに必要な看護技術③（グループ発表）（今野，飛澤）
第 28 回 クリティカルケアに必要な看護技術④（技術演習）（今野，飛澤）
第 29 回 クリティカルケアに必要な看護技術⑤（技術演習）（今野，飛澤）
第 30 回 まとめ（今野）

【授業実施方法】

講義（第 1 回～22 回、30 回）、技術演習（第 23～29 回）で進め、講義については、急性期と回復期を整理しながら、後期の演習に反映できるように進めます。また、演習では、グループ・ワークを通して課題とシナリオの検討を行い、その成果を発表してもらいます。そして、グループ学習による協働的学びを求めたいと考えております。

【事前・事後学習】

専門基礎科目、成人看護学概論等、既習の関連科目の予習が必要です。特に病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ内容を、講義内容に応じて毎回 30 分以上の予習と復習をしてください。また、演習のための事前学習課題を提出してもらいますので、それにかかわる準備時間として約 10 時間以上の時間を使って行ってください。

【主な関係科目】　成人看護学概論、成人看護方法論Ⅰ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】　系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学・リハビリテーション看護学　（医学書院）

【参考文献】　適宜授業で紹介します。

【成績評価方法】　前期・後期に試験を実施。試験（80%）、課題提出・演習態度など（20%）を総合的に評価します。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

救命・救急医療の現場で様々な症例への対応を経験してきました。その知識と経験を生かして、看護の多様性を伝えていきたいと考えております。

【学生へのメッセージ】

クリティカル期・回復期の特徴を学び、観察することの大切さ、患者さんはもちろんのこと周囲への配慮を学んで欲しいと思います。解剖学･生理学を復習し、学習に臨んでください。